



正確で明るく
暢びやかな芸術作品!

～ 2月26日 新潟県書き初め大会表彰式 ～

※関連ページは18ページ

平成29年度

施政方針説明

3月9日、定例村議会の初日に行われた平成29年度施政方針説明で、平田大六村長が村政運営の基本方針と主要事業について述べました。予算編成を除き、ほぼ全文を掲載しました。予算の説明は8〜12ページをご覧ください。



昨年11月28日の夕方にもたらされた村内の養鶏場で鳥インフルエンザが発生したという情報は、極めて深刻なものでありました。緊急対策は新潟県が主体となつて対応することになってはいますが、村としてもあらかじめ定めていたマニュアルに従い、全職員、しかも24時間態勢でその対策に当たりました。昨年国内初の発生であったため、メディアはこぞつて関川村の状況を連日報道し、これによる風評被害があつた一方で、物心両面で支援をしたという声もいただき、感激したところでもあります。この広く知られたマイナスイメージを、今後どのようにプラスに変えていくかを検討したいと思います。

さて、今年にはわが国にとりまして節目となることがいくつあります。明治維新から数えて150年、そして昭和22年5月3日に施行された日本国憲法と地方自治法が70年を迎えます。

同様に、関川村にとつても今年はいくつもの記念すべき年であります。

まず、昭和42年8月28日に発生した羽越水害から今年で50年になります。それと同程度の被害があつたとされる宝暦7年（1757年）の水害からも260年、さらに溯れば岩船地域一帯が大洪水に見舞われたという享保2年（1717年）から300年目に当たります。これについて、国土交通省が中心となり、新潟県、それに荒川沿川の市町村が構成員となつて「羽越水害50年記念事業（荒川水系）実行委員会」を立ち上げ、数多くの事業を計画しております。

また、村の文化的シンボルである渡辺家についても記念すべき年となっております。渡辺家初代・儀右衛門が下関に定住地を構えたのは寛文7年（1667年）とされ、350年が経過します。さらに火災で焼失して再建された現在の建物の上棟は文化14年（1817年）であり、200年となります。その管理を目的に設立された、現在は「公益財団法人」となっている「国指定重要文化財渡辺家保存会」は、「財団法人」として昭和42年（1967年）に設立され、今年で50年となります。



次に、一昨年の正月早々から県内紙で連載されて注目され、今年の1月に開催され教育懇談会でもテーマとなった学制改革の実験校「関谷学園」は、県内から大きな反響を呼びました。それらによってわが国の6・3・3制学制改革が実施されましたが、今の小学校・中学校制度が廃止したのは昭和22年（1947年）4月であります。村では5月1日に関谷中学校と土沢分校、女川中学校（川北校舎）と女川分校が発足しました。それから数えると70年になります。

このほか、「ゆくむ」がオープンしてから20年になるなど、関川村はいくつもの節目を迎えますので、それぞれのことについて認識を新たにし今後の村政に反映させたいと思います。

わが国はいま、急速に進む人口減少問題に直面しております。また地方から東京圏への人口集中にも歯止めがかからない状況にあります。

1月31日に総務省が公表した住民基本台帳に基づく昨年の人口移動は、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、東京都を範囲とする東京圏は依然として転入者が転出者を上回っている一方で、新潟県は6千人を超える転出超過の状況であります。

安倍首相は1月20日衆参両院で施政方針演説を行いました。その中の「地方創生」の項目では、次のように述べております。

「地方には、それぞれの魅力、観光資源、ふるさと名物があり、それを最大限生かすことで、過疎化という『壁』も必ずや打ち破ることが出来るはず。自分たちの未来を自らの創意工夫と努力で切り拓く、故郷（ふるさと）への情熱を持って地方創生にチャレンジする地方のみなさんを全力で応援する」。

このように、地域資源を活用した活性化対策は、私たちが考えることと同じ方向にある。

り、意を強くしたところであります。

平成28年度から実施いたしました計画的な村行政の指針となる第6次関川村総合計画は、昨年の3月定例村議会では、議決いただきました。また、「総合戦略」も同時期に決定しましたが、それぞれ毎年進捗管理を行い、必要によって見直ししながら、着実に政策が進展するように努める決意であります。

さて、平成29年度の政府予算案は現在国会で審議中であり、一般会計総額は97兆円余りとなり、一億総活躍社会の実現を柱に、積極的に人口減少対策を推進するとしております。

これに関連して政府は2月7日に、地方自治体全体の収支の見通しを示す平成29年度の地方財政計画を国会に提出しました。この地方財政計画は、国の地方対策の指針を定め、かつ地方の財政運営が安定的に行えるように一般財源総額を確保するためのものであります。計画の規模は前年度を1・0％程度上回る86兆6000億円となり、そのうち

ち地方の一般財源総額についても約4000億円増額し、62兆803億円と過去最高額を確保したとしています。自主財源が少なく地方交付税などに頼っているわが村に、国の政策がどのように影響してくるのか、注目してまいります。

なお、村財政での将来的な課題は、財源が年々厳しくなることとあります。税収の減少に加え、人口減少などに伴う地方交付税の減収がこれからも進行することとあります。このままでは現在の行政水準を確保することすら厳しいものがあると認識しております。そのため、人口減少の抑制、雇用の確保、課税対象の増加対策、財産収入などその他の収入の確保などが喫緊の課題となつております。理事者としてその対応を考えることは当然のこととありますが、議会のみならず、そして村民のみならずにも実態を知っていただくとともに、ご理解いただきたいと思っております。

以下、これらを踏まえた平成29年度の行政の考え方について、総合計画の区分について説明します。



《住みよい暮らしのために》
《安心して暮らせる》

条件の整備

高齢化が急速に進行する村にあつては、地域内の諸団体との協働に期待するところが大きくなつております。集落やコミュニティ組織の重要性はいつそう増しており、そのために、それぞれの組織が自主性のもとに円滑に運営ができれば、村として多面的に支援し、共に発展を目指します。

キラリと光る地域活性化事業は、村民のみならずやグループの自発的な提案を実現するものとして取り組み、様々な効果が期待されるとともに、



問題点の指摘もありますので、それらを改善しながら総額を減らして継続いたします。

路線バスとJR東日本の米坂線は、村内公共交通の基幹であり、いっそう利用しやすいような沿線市町村や関係会社と協議を重ね、将来とも存続することと利便性の向上に努めます。なお、定期路線バスは毎年補助金を交付して維持していますが、さらに高齢者対策の一環として、また利用者の増加に期待し、一律料金制度の導入をしたいと考えています。その可能性を含めて関係会社などと協議し、それが整った時点で導入することにしたいと思います。

村内の家庭から出るゴミについて、収集は村で行うものの、焼却処理は村上市の施設に委託しています。毎年述べ

ていますように、関川村の住民1人当たりの年間ごみ排出量は、県内30市町村中3番目に少なく、村民のみなさんの減量努力に感謝しているところであります。

災害対策基本法に基づいて定めている「関川村地域防災計画」について、現計画が策定以来年数を経過し実態にそぐわない部分があるため改定作業を進めています。委託した専門業者からまもなく報告されることになっており、それを受けて関川村防災会議を招集して審議いただき、決定いたします。

防災は、自助・共助が重要であります。集落単位の自主防災会は現在35集落で組織され、人口割合では83%以上になっています。昨年は関川村自主防災会連絡協議会と村により、全村の防災訓練を実施したところであります。この反省と検証をもとに、中心会場を移動しながら隔年で訓練を実施することになっています。今年の実施計画はありませんが、来年に向けた取り組みが必要であります。併せて、各自主防災会に複数の防災士の配置を目指しており、資格の

取得を支援するとともに、自主防災会それぞれで行う避難訓練や装備の充実をも支援し、防災意識の高揚に努めます。

交通事故は、全国的に件数、死亡者数ともに年々減少しています。村内の運転免許保有者は約7割であり、高齢者の免許保有者が多いことから高齢者が係る交通事故が社会問題になっていきます。国では道路交通法の改正を行い、高齢者の運転免許の条件を厳しくすることになりました。また、交通事故の防止は啓発が重要であります。交通安全協会など関係団体とも連携して、いっそう活動を推進します。



国道113号に沿って進められている地域高規格道路新潟山形南部連絡道路は、「鷹ノ巣道路」の関係予算が順調に確保され、大きく進展するものと期待しています。さらに金丸から小国町の中心部までの12キロは「小国道路」として事業が計画されていますが、早期着手となるよう沿線市町村と連携して国に要望してまいります。

県管理の国道290号の改良工事については、国道113号への接続部分の工事などが進展し、まもなく竣工するものと思います。その竣工を待つて、高田橋以北の既定路線の整備を促進するよう県に対して要望を重ね、実現に努めます。

村道整備と改修につきましては、各集落からたくさんの方の要望をいただいています。財源の確保に努めながら、緊急度を確かめつつ対応してまいります。村内の除雪状況は村外からも高い評価を得ていますが、昭和50年代に他の市町村に先駆けて導入を始めた消雪パイプは、その延長が50キロにも及び、しかも老朽化が急速に進行していますので、

引き続き年次計画で更新に努めます。

自分の住むふるさとに誇りと自信を持つことは、心の豊かさを保つ大切な要素であると思います。それには、先人が守ってきた自然環境を保全し、これまで培われてきた歴史や文化をいっそう大切にしなければなりません。

昭和63年から始まった「大したもん蛇まつり」は、国土交通省主催の「平成28年度手づくり郷土（ふるさと）賞」で全国20団体に選ばれ、去る2月の表彰式で受賞しました。今年で30回を数えるこのまつりについて、その開催意義を原点に返って認識し、村内54



集落にお願いして制作している第9代目の大蛇を活用しながら継続してまいります。

なお、全国の優れた自然環境の地で開催されてきた全国ホテル研究会の全国大会について、第50回の今年は6月30日から3日間、関川村を会場に開催されることになりました。すでに実行委員会を立ち上げ、その準備を進めています。

《地域を担う産業の振興》

国の地方創生の目標の大きなひとつは、雇用創出であります。地方への移住希望者が増加傾向を示しているなかで、最も多い問い合わせは「働く場があるかどうか」ということであります。若い人たちが村内に定着していただくにも、働く場を準備することが重要な要素のひとつであります。雇用動向が改善しているとはいえ、雇用条件が良く、期待される仕事内容の企業立地は容易ではありません。

村内の産業間の連携も重要であります。村内には、農協の支店、商工会、観光協会、温泉旅館組合、その他多くの

経済関係の任意団体があります。6次産業化の促進、相互協力による売れる産物などの開発、村外企業との関係強化、地産地消の推進などに支援したいと考えています。

村内資源の活用では、農林業の生産物及びその加工、再生可能エネルギーの利用、また人的資源の活用など仕事づくりとして可能な資源がたくさんあります。なかでも再生可能エネルギーの活用は、国内の大きな潮流となつていま

す。足掛け5年になる木質バイオマス発電事業の導入は、雇用創出と林業振興、関連産業への波及効果を目的にしており、県北の林業関係者から大きな期待が寄せられています。現在、事業主体となる株式会社パワープラント関川において条件整備を進めているところではありますが、すべての資金を外部に求めていることもあって、資金提供者の意向に沿って対応しなければなりません。このようなことから、本当に資金提供があるのか、導入される機械の性能などが信頼できるのか、村民への説明がない、などといった声を

たくさん頂戴しております。

その結果として、議会開催ごとに一般質問のテーマとなり、また一部の村民から住民監査請求、そして住民訴訟へ進んでいることもあります。これらに至っていることについては私の不徳のいたすところであり、いつときも早く払拭できるように努めているところであります。

なお、事業推進の大きな条件である木材の確保、国の事業認定など、資金を除く条件の整備はほぼ終えておりまともに、資金についてもまもなく実現の見通しであります。それらを待つて村民のみなさんに事業の概要と今後の見通しについて説明したいと考えています。事業実現の暁には、村の発展に大きく貢献するものと期待しています。

《農林業の振興》

国は平成30年産から国による生産数量目標の配分を廃止いたしますが、価格の維持のためにこれまでの枠組みを維持することが不可欠だと思います。県をはじめ市町村の農業再生協議会は存続します

ので、方針作成者の中心である農協組織、新潟県などと協力し、村内の農家にとつて有利になるよう取り組みたいと思います。

村内の農業は、生産性が低く、コメ以外の作物に取り組むことにも課題が多いこともあり、どのようにしたら農業所得を高めることができるのかを真剣に考えなければなりません。それが後継者対策にもつながるものと思います。

県営事業として進めている女川左岸地域約250ヘクタール、そのうち面工事が190ヘクタールという基盤整備事業は5か年で完成させたいとしており、平成29年度は38ヘクタールの工事を実施する計画であります。村も財源の一部を負担しており、土地改良区が主体となつて取り組んでおり、早期完成に期待しています。

わが国の山林は、戦後に植林された人工林の半数が本格



的な利用期を迎え、その利用が課題となっています。村内には約6500haの民有林があります。森林は適度の更新によって活力を再生させます。そのためには、村が筆頭出資者となっている関川村森林組合を中心に、村有林を含めて山林の手入れを進めてきています。今後も林道整備をはじめ、いっそう村内林業の振興を図ります。また、県営岩船東部線林道整備事業は、いよいよ工事に着手する見通しとなっています。一方、林業振興につながる不明確な境界の確定をしようと進めている国土調査事業について、今年は川北地区で実施いたします。

政府は、外国からの観光客（インバウンド）をいっそう増加させる目標を掲げています。村としても、その誘客対策や、施設の見直しと集約など、実施できるものは早期に取り組みます。

わかぶな高原スキー場について、今シーズンも昨年同様にオープンがずれこみ1月13日になってしまい、大幅に入込客数が減少しています。スキー場は、村の冬の観光には欠かせない施設であり、引き続き老朽化する施設の計画的な改修を行うとともに、運営会社である株式会社わかぶな高原への支援を行なっています。また地元から賃貸借しているスキー場用地の貸借期限が今年の6月であることから、一昨年から地権者との話し合いを進めており、ご理解とご協力もいただきながらいっそうの発展に期待しています。

《交流から定住へ 促進するために》

昭和58年4月に事業を開始した「いで湯の関川ふる里会」は、今年が35年目となります。30年以上も継続して会員にな

つていただいている40名を超える方々にはたいへん感謝しております。去る2月下旬には、東京において盛大に交流会を催しました。関川村のファンクラブでもある「いで湯の関川ふる里会」の会員のみなさんには、「ふるさと納税」でも大きく貢献していただいております。同時期に発足した首都圏在住関川村人会とともに大切な村の財産であります。

また、10年以上の交流の歴史がある「国際ボランティア学生協会（IVUSA）」からは、毎年数回のボランティア



活動をしてもらっています。村の活性化のために継続してさらなる交流をお願いしたいと思います。

配偶者対策は、それぞれ個人の人生に関わることであり、短期間に大きな効果を挙げることは難しいのが現状であります。村としても出会いの機会を増やすことなどに努めてまいります。

《切れ目のない子育て 支援のために》及び 《村民みんながいきいきと 暮らせるために》

教育委員会制度の改革とともに制度化された「総合教育会議」は、村長と教育委員会で構成し、村の教育に関する大綱の策定、教育環境整備など重点的に講ずべき措置について協議し調整する場です。去る2月28日に平成29年度の教育方針となる「関川教育構想2017」を協議しております。「ふるさと関川村を愛し、誇り、発展させるひとづくり」を副題とした構想は、「1. 子どもの生きる力を育む」「2. 学校・地域の教育力を高める」「3. 安心して学

べる環境を整える」、そして「4. 地域に豊かな学びを創る」という大きな柱を建て、具体的な目標を掲げそれに従って施策を進めます。

なお、村内の小学校と中学校は、それぞれ教職員、保護者、地域のみなさんの連携と協力により、円滑に運営されていると感じております。しかし、児童数の減少に伴って教員数の減少もあるため、村では他の自治体より児童数に比較して多い教員補助員を確保し、授業内容の充実に努めるとともに、ICT活用教育の先進地として知られるようになりましてので小学校と中学校一貫した取り組みを進めています。

村民のみなさんの生きがい対策に果たす生涯学習は重要であり、世代間交流や生きがいを醸成する役割も期待されますので、これまでどおり各種の講座や地域学習を通じて村の文化や良さを理解いただきながら、生き甲斐を持った生活ができるようその一助にしたいと思います。

保護者負担の軽減についてであります。村では他に先駆けて高校卒業までの医療費支

援をしているほか、保育料の軽減、不妊治療に対する助成、高校通学定期券購入費の補助、学校給食費の助成、大学生への奨学金制度を村内定住につながる場合には一部返還免除する制度も導入しています。子育てには、保護者負担の軽減のほか、育児支援、相談業務、仕事と生活の調和、労働と家庭のバランスなどの課題もあり、国や県との連携により充実させていきたいと考えています。

《福祉と健康づくり》

今年はい介護保険法が設立して20年を迎える節目の年であります。終戦後の昭和22年4月から25年3月までに生まれたいわゆる「団塊の世代」が平成37年には75歳以上の後期高齢者となり、「2025年問題」と呼ばれ大きな課題になっています。昨年1年間に生まれた人の数が100万人程度であるのに対し、団塊の世代は1年間に270万人近い出生数でした。それが医療・介護・年金・生活支援などで大きな問題になることが明らかであります。関川村のよ

うな小規模自治体であっても、必要な対応はしなければなりません。それにはまず、健康年齢を伸ばすことが肝要であります。

地域包括支援センターは、介護などについて最初に相談にあずかる重要な業務を担当しており、年々業務量が増大し、またその内容も専門化、複雑化してきています。

社会福祉政策では「共助・公助」という考え方が基本であります。共助では集落、コミュニティ組織の取り組みとともに、社会福祉協議会との連携が重要であります。そこで、村の福祉の拠点を新たに整備することにし、昨年取得



した村民会館脇の用地の一角に、木造平屋建ての新施設を建設することにしました。すでに実施設計を委託して進めており、準備ができ次第工事に着手します。

健康づくり運動は、その指針である「健康せきかわ21」に沿って事業を実施しています。なかでも村民の意識高揚が重要であり、村民挙げて健康づくりができる機運をいっそう高め、早期発見、早期治療となるよう、関係諸団体や行政機関とも連携し、予防活動を進めてまいります。

医療の確保では、関川診療所の維持と地域内の開業医の先生からご協力を得て、また県立坂町病院、厚生連村上総合病院などとも連携しながら、その充実に努めています。昨年締結しました新潟リハビリテーション大学との包括的な協定について、これを有効に活用し村の福祉や健康づくりの課題解決に役立てます。

《無駄のない健全な行財政運営のために》

岩船園域はもちろん、近隣市町村とは文化・経済・社会

などあらゆる分野で協力関係にあります。共通の事務を共同で処理することや、様々な課題に対し一緒に対応する組織などへの参加も、村を維持し発展させるためには必要條件であります。

行政運営の基本の一つは、日々効率的な改善に努めることとあります。市町村合併に加わらず自立する方針を決めて以来14年、幹部職員の定年退職や事務量の増加などもあり、より一層の計画的な人事行政が必要であります。

また、各セクションの機能を強化することも重要であり、そのためには職員一人ひとりの能力を高める必要があります。村内外の動向に関する情報を共有し、職場内外での研修の機会を増やし、自己啓発の機運をいっそう高めてまいります。

なお、県との職員の人事交流は、今後も継続して実施し、職員の資質向上に役立ててまいります。

今後とも、直接行政事務に携わる職員の健康保持とモチベーションの高揚にも配慮し、効率的な行政の推進に努めます。

最後に、「平成29年度の各会計の予算」についてであります。

以上申し述べました施政方針に基づいて、平成29年度の予算を編成しました。一般会計は49億1300万円となり、前年度に比べ4900万円、1・0%減少しております。財源は地方交付税などまだ一部見通せないものもあり、とりあえず財政調整基金の取り崩しを計上したほか、特定目的基金からの繰り入れで賄っております。

一般会計と9特別会計を合わせた、前年度とほぼ同程度の74億3480万円となりました。また、公営企業である水道事業会計についても、最低限必要な予算措置をしております。

結びに、先人が築き上げた歴史と伝統を大切に、関川村を発展させて後世に伝えていくため、村政の責任者として一生懸命に努力する覚悟であります。村議会はじめ村民のみなさんのいっそうのご支援とご協力をお願いし、平成29年度の施政方針説明といたします。

平成29年度 当初予算

福祉の充実に重点配分

～ 拠点施設の整備に1億8,969万円 ～



一般会計の総額は49億1,300万円。新社会福祉センター整備、大石ダムトンネル修繕工事、中学校柔剣道場改修工事などの新規事業を計上しましたが、総額は昨年度よりも4,900万円減りました。

今年度から地域活性化や産業振興を図るため地域おこし協力隊事業を導入します。移住定住促進を図るため、空き家バンク事業、空き家家財道具撤去補助事業、住宅リフォーム補助、また男女の出会いをサポートする婚活支援事業などを実施します。学校給食費補助、高校生通学用定期券購入補助などの子育て支援策も継続実施します。

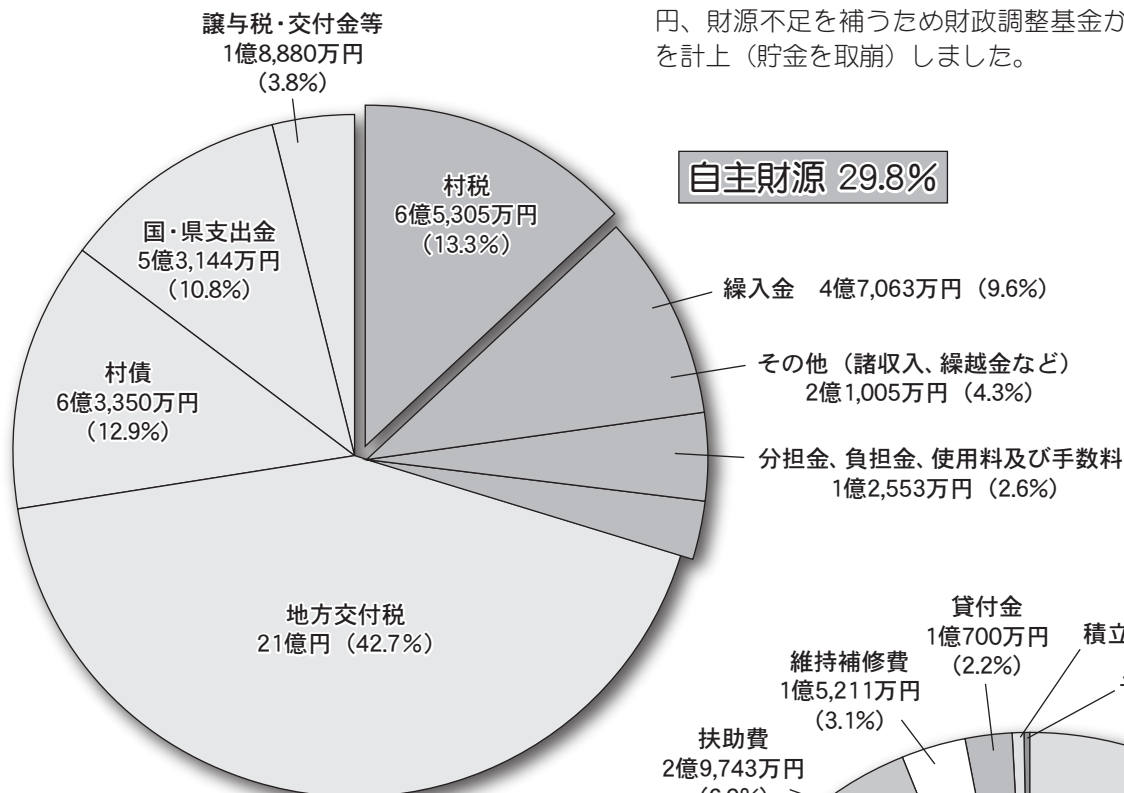
■各会計の当初予算

会 計 名		平成29年度予算	平成28年度予算	前 年 比	
				増減額	増減率
一 般 会 計		49億1,300万円	49億6,200万円	▲4,900万円	▲1.0%
特 別 会 計	国民健康保険事業特別会計	7億3,000万円	7億5,000万円	▲2,000万円	▲2.7%
	国保関川診療所特別会計	6,240万円	6,230万円	10万円	0.2%
	介護保険事業特別会計	10億950万円	10億530万円	420万円	0.4%
	後期高齢者医療特別会計	6,120万円	5,930万円	190万円	3.2%
	村有温泉特別会計	660万円	660万円	0万円	0.0%
	宅地等造成特別会計	10万円	210万円	▲200万円	▲95.2%
	簡易水道特別会計	1億300万円	3,920万円	6,380万円	162.8%
	公共下水道事業特別会計	4億5,600万円	4億3,900万円	1,700万円	3.9%
	農業集落排水事業特別会計	9,300万円	1億600万円	▲1,300万円	▲12.3%

水道事業会計		平成29年度予算	平成28年度予算	前 年 比	
				増減額	増減率
収益的収支	収 入	1億697万円	1億874万円	▲177万円	▲1.6%
	支 出	1億687万円	1億864万円	▲177万円	▲1.6%
資本的収支	収 入	0.1万円	120万円	▲119.9万円	▲99.9%
	支 出	8,412万円	7,785万円	627万円	8.0%

歳入 (一般会計)

49億1,300万円



依存財源 70.2%

●繰入金

下水道会計や水道会計など、料金収入で賄いきれない特別会計に対して支出するものです。

その他国保会計、後期高齢者医療会計、介護保険会計などに対する、法律に基づいた村の負担金も含まれています。

●公債費

公債費とは借金返済額のことです。前年度より4,180万円減少しています。

●投資的経費

道路、橋りょうなど各種社会資本の新增設を行う際の経費です。国の社会資本整備総合交付金を活用して、老朽化している消雪パイプの更新事業や大石トンネル修繕工事、中学校柔剣道場改修工事など、前年度よりも4,771万円増加しています。

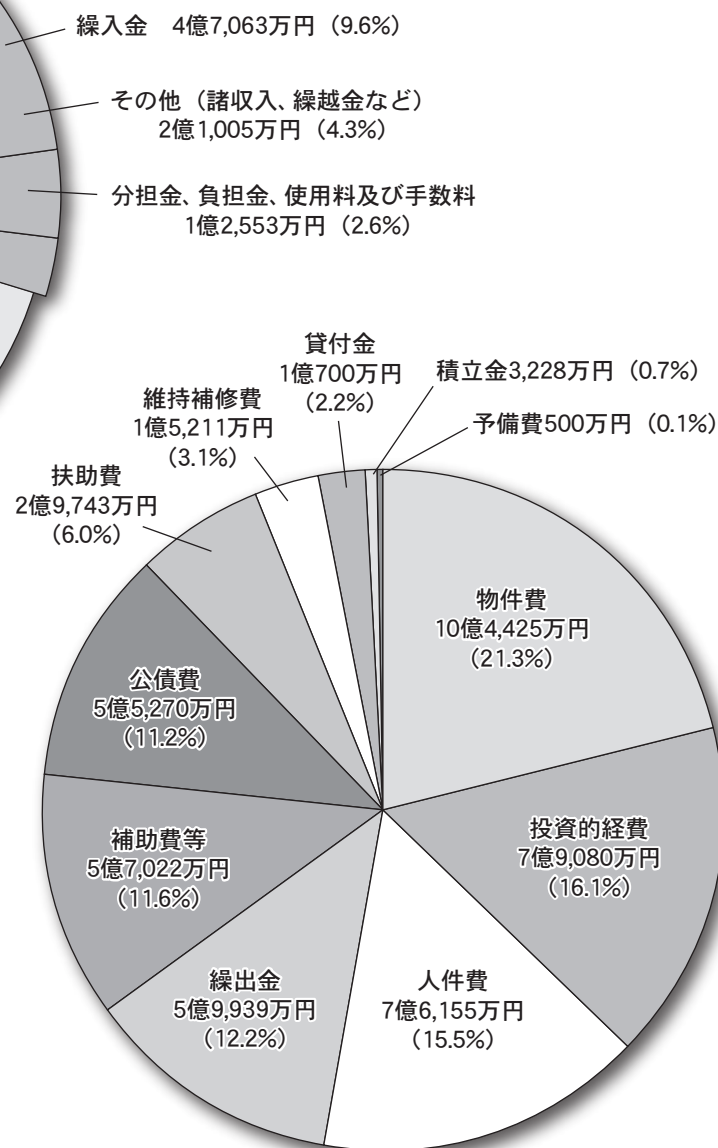
●村税

固定資産税は3億9,895万円。村民税は1億7,555万円、たばこ税は3,878万円、入湯税は1,813万円、軽自動車税は2,036万円を計上しています。

●繰入金

スキー場リフト改修等工事の財源として商工観光振興対策基金から6,500万円、新社会福祉センター整備や介護保険事業特別会計繰出金の財源として社会福祉総合対策基金から5,500万円、財源不足を補うため財政調整基金から2億9,727万円などを計上 (貯金を取崩) しました。

自主財源 29.8%



歳出 (一般会計)

49億1,300万円



●住みよい暮らしづくりのために

○地域おこし協力隊の導入

地域おこし協力隊事業に取り組み、地域の活性化や産業振興を図ります。その経費として798万円計上しました。「地域おこし協力隊」は、総務省が取り組んでいる事業で、人口減少や高齢化などが著しく進む地方へ、都市部等の意欲ある人材が移住（最長3年）し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行う制度です。

○コミュニティ活性化事業

コミュニティや集落活動を見直す学習会等の経費として250万円を計上しました。身近な自治組織であり地域の活性化の基礎になるコミュニティや集落の機能強化を図ります。

○防災士資格取得経費補助事業

避難訓練などの防災活動を推進し、災害発生時における被害の軽減や迅速な対応を行う防災士の資格保有者を増やすため、取得経費補助事業費として61万円計上しました。防災士とは民間資格であり、地域の防災意識の啓発、防災力の向上に努め、災害発生時には避難誘導・救助にあたる者です。自主防災組織や関係機関と連携し防災体制を強化していくことも重要です。

○集落街灯の灯具支給補助の拡大

集落街灯のLED灯具への切り替えを計画的に進めるため、251万円計上しました。LED灯具を無償提供し、さらに事務手数料補助制度を設けます。支給補助については、予算の範囲内で集落と調整を図ります。

●地域を担う産業の振興のために

○農業振興

水田活用補助事業の経費として1,860万円計上しています。これは特定の作物を栽培するなどの一定の条件を満たした生産者へ補助する制度です。また、農業における担い手、地区営農の支援育成、地域全体の農業振興を図るための経費として、

多面的機能支払交付金5,720万円、機構集積協力金交付金事業1,640万円、青年就業支援事業補助金450万円を計上しました。今後、国の農業施策は大きく変わっていくことが予想されるため、社会情勢等の変化に注視しながら、農協などの関係機関と連携して支援育成を図っていきます。

○林業振興

森林の計画的な整備や資源の有効活用を図るため、林道整備事業に3,150万円、民有林間伐等推進事業補助金に807万円、森林作業道整備事業補助金に480万円を計上しています。

○地産地消の推進

地産地消推進事業経費として、175万円計上しました。地元の食材を活かした学校給食の提供に努めます。また、村内店舗や一般家庭においても地元食材の利用を拡大させるため、道の駅のあいさい市や生産者などの連携を深め、地産地消の推進を図ります。

●交流から定住へ促すために

○都市との交流

都市との交流事業、首都圏宣伝事業の経費で347万円計上しています。

交流人口の増加や地域の活性化のためには地域間や都市との交流が重要です。設立後30年を経過し、今なお盛んに続いている「いで湯の関川ふる里会」などの交流活動をさらに活発化させることで、観光振興、経済効果、定住施策などの面で多様な効果を期待しています。

○移住・定住施策

空き家の利活用、移住者の受入れ体制を整備するため、空き家バンク事業を継続実施します。また、空き家バンクの充実を図るため、今年度から家財道具処分補助事業を実施します。その経費として60万円計上しました。生活環境の整備と地元経済の活性化を図るための住宅リフォーム補助事業（10%補助）に

についても継続実施。その経費として500万円計上しました。村の奨学金を活用した定住施策も実施しています。これは村の奨学金を受けて大学等に進学した人が村にUターンした場合、奨学金の一部を免除する制度です。

●切れ目のない子育て支援のために

○子育て世帯の支援

14回分の妊婦一般健診の経費として445万円を計上し、また年間10万円を上限とした不妊治療補助金に60万円計上しています。子どもの医療費助成では、村独自に対象を拡大し、入院・通院ともに高校卒業まで助成する経費として1,650万円計上しました。保育料の負担軽減制度も設けており、国の基準よりも低額に設定し、多子世帯向けの減額制度も手厚くしています。

学校給食費に対し月額2,000円の助成をする経費として866万円計上しています。高校等通学で使用する電車や路線バスの定期券購入費用の30%を補助する経費として、320万円計上しました。

○医療福祉の充実

休日や平日夜間の地域医療体制（内科、小児科）を充実するため、急患診療所（村上市）の委託料30万円を計上しています。また「あらかわ病児保育センター」（県立坂町病院隣）の事務委託料80万円も新規計上しています。この施設は病児・病後児保育を実施するものであり、7月から運営される予定です。

●みんながいきいきと暮らせる環境づくりのために

○健康づくり、高齢者福祉の充実

健康づくり推進協議会や村食生活推進協議会など関係機関と連携して、村民の健康づくりに取り組む経費として197万円計上しています。また、高齢者が元気で安心して暮らせることができるよう、地域の茶の間事業をはじめ、地域包括支援センターや介護予防対策の充実を図ります。各地区の老人クラブの補助金経費として98万、地区の敬老会補助金経費として228

万円計上しています。

○社会福祉の拠点整備

社会福祉行政の拠点整備として、新社会福祉センター整備事業に1億8,969万円を計上しました。高齢者福祉、障がい者福祉などさまざまな活動に対応していくための施設整備であり、今後は、関係福祉団体と連携しながら社会福祉行政のさらなる推進を図っていきます。なお、新社会福祉センターは村民会館前に建設します。

●無駄のない健全な行財政の運営のために

○財政の健全化

全国的に進められている統一的な公会計制度の導入を着実にすめ、財務諸表の活用を図り、計画的で健全な財政運営を図ります。固定資産台帳の整備更新や財務諸表の作成支援などの経費として587万円計上しています。

○広域連携

村上市と連携協定を結んだ定住自立圏協定によって、婚活事業（予算21万円計上）などを実施していきます。また、県北地域や他県等との連携を一層深め、魅力あるむらづくりを展開していきます。

く使途が決められている収入く

○地方消費税交付金

消費税引上げ分（5%↓8%）は「社会保障施策に要する経費」に充てるとされており、当村では予防接種委託料や福祉施設の維持経費に充てます。

○入湯税

入湯税は1,813万円計上しており、観光施設の整備経費に充てます。

○電源立地地域対策交付金

発電所の設置自治体の活性化等を目的に国から交付されるもので、鷹ノ巣発電所（水力発電）が対象となっています。交付される440万円は村道の補修経費に充てます。



平成29年度の主な事業内容をお知らせします

議会費

議会活動費	411万円
-------	-------

総務費

行政連絡事務委託料	1,324万円
地方公会計関連経費	587万円
防災士取得事業補助金	61万円
地域おこし協力隊事業費	798万円
空き家活用家財道具撤去補助金	60万円
空き家バンク事業業務委託料	13万円
婚活支援業務委託料	45万円
コミュニティ学習会等業務委託料	250万円
キラリと光る地域活性化補助金	400万円
大したもん蛇まつり補助金	550万円
むらづくり総合推進事業補助金	510万円
通学用定期券購入補助金	320万円
生活交通確保対策(路線バス)運行費補助金	2,533万円

民生費

社会福祉協議会補助金	2,498万円
国保会計繰出金	4,510万円
後期高齢者医療広域連合負担金	9,341万円
介護保険会計繰出金	1億7,752万円
後期高齢者医療会計繰出金	2,716万円
通園バス運行事業費	601万円
地域生活支援事業委託料	1,640万円
下越障害福祉事務組合負担金	1,215万円
心身障害者福祉タクシー助成補助金	129万円
介護給付費訓練等給付費(心障)	1億2,180万円
ひとり親家庭医療費助成事業費	366万円

衛生費

時間外急患診療業務委託料	30万円
病院群輪番制病院運営費負担金	189万円
健康づくり対策費	197万円
成人病予防健診・特定健診委託料	1,084万円
個別予防接種委託料	1,922万円
妊婦健診等委託料	445万円
不妊治療補助金	60万円
医療費助成給付費(少子対策)	1,650万円
ごみ収集委託料	4,145万円
ごみ処理運営費委託料	4,209万円
胎内市清掃センター委託料(し尿処理)	2,059万円
診療所会計繰出金	1,060万円
水道事業会計補助金	2,031万円
簡易水道会計繰出金	397万円

農林水産業費

有害鳥獣駆除対策事業費	290万円
村水田活用推進補助金	1,860万円
地産地消推進対策費	175万円
中山間地域等直接支払交付金	1,970万円

畜産振興費	697万円
国土調査事業費	2,967万円
多面的機能支払交付金	5,720万円
県営土地改良事業負担金	8,165万円
農業集落排水事業会計繰出金	6,854万円
林道整備事業費	3,150万円
民有林間伐等推進事業補助金	807万円
荒川漁業協同組合補助金	200万円

商工労働費

関川村商工会補助金	660万円
関川村観光協会補助金	1,260万円
観光施設管理委託料	6,415万円
ゆ〜む管理委託料	6,385万円
全国ホテル研究会開催補助金	390万円
わかぶな高原スキー場誘客対策補助金	500万円
わかぶな高原スキー場リフト改修ほか工事	7,000万円

土木費

道路除雪対策費	1億2,520万円
除雪機械購入費(除雪ドーザ2台)	3,380万円
道路橋りょう維持費(工事費)	3,500万円
道路橋りょう整備費(道路改良工事)	2,200万円
道路橋りょう整備費(消雪施設工事)	8,600万円
道路橋りょう整備費(交通安全施設)	100万円
木造住宅耐震診断補助金	165万円
住宅リフォーム事業補助金	500万円
公共下水道事業会計繰出金	2億4,067万円

消防費

消防団運営費	2,808万円
常備消防運営委託料	1億7,099万円
消火栓更新工事繰出金	950万円
県生活再建支援システム整備負担金	49万円
消防ポンプ積載車購入(1台)	450万円

教育費

スクールバス運行事業費	1,783万円
小中学生通学バス定期券購入費	1,155万円
教員助手等臨時雇用賃金	2,358万円
情報通信技術(ICT)授業支援業務委託料	593万円
情報通信技術(ICT)システムリース料	1,908万円
中学校柔剣道場改修工事	3,700万円
学校家庭地域連携促進事業(放課後子ども教室)	329万円
せきかわ歴史とみちの館管理費	999万円
重要文化財補修等管理事業補助金	346万円
ふれあいど〜む管理委託料	802万円
村民会館駐車場整備事業	2,809万円
学校給食費	3,517万円
学校給食費補助金	866万円

公債費

地方債元利償還金	5億3,070万円
----------	-----------

H29年度も実施します！

住宅リフォーム補助金制度

村では、村内の住宅関連産業を中心とした地域経済の活性化を促進するため、村内の施工業者によって個人住宅のリフォーム工事（改修・補修・修繕）を行う村民を対象に補助金を交付します。

補助対象となる工事費

補助対象額が10万円以上のリフォーム工事です。

補助金の額

補助対象額の10%に相当する金額で、上限額は10万円です。
ただし、リフォームを機会として下水道等に接続（加入）する場合は、20%（上限額20万円）まで引き上げます。

補助対象の主な条件

- ・村に住所登録をしていること（Uターン予定者でも場合によっては可）
- ・村税などを滞納していないこと
- ・村内施工業者が行うリフォーム工事であること

※この補助金を受けたことがある方も対象としますが、2年連続で補助金は受けられません。

補助対象とならない工事

- ・新築、増築工事
- ・店舗や倉庫、車庫などの非居住部分
- ・耐震改修など他の補助金制度と重複する工事

《問い合わせ先》

◆事前相談

建設環境課 地域整備班

☎ 64-1479

◆書類申請

総務課 企画財政班

☎ 64-1476



4月7日（金）から運行開始

高校生等支援バスの利用について

村では、高校生等の帰宅支援を目的に、平日のみ支援バスを運行しています。

利用にあたっては次のルールを守り、バスが安全・円滑に運行できるようご協力をお願いします。

利用対象者

中学生、高校生、専門学生、大学生

発車時刻

坂町駅前 19時15分

利用方法・運行区間

・降車場所に関わらず、無料です。

・「下関行き」と「女川行き」があります。（マイクロバス2台）

・降車場所は、路線バスのバス停です。

〈下関行き〉

関川村商工会館前、下関営業所、村民会館

〈女川行き〉

大島、高田橋、橋場、勝蔵、辰田新、小見、平内新、深

沢、上野新、女川ふるさと

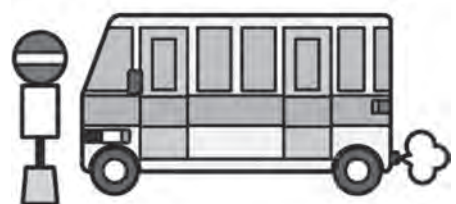
会館、農協スタンド

・乗車の際、バス内入口付近に備えている「降車場所記入簿」に、「正」の字の一面を記入してください。（運転員がこの記入簿を見て、停車します。）

※女川行きのバスは坂町地区の一部のバス停（下鍛冶屋、春木山、荒島、花立）にも停車します。（村上市との連携協定により）

注意事項

・台風や雪などで羽越線の列車が遅れた場合は、19時20分まで列車の到着を待ちます。19時20分に発車しますので、間に合わない場合はお家の人に迎えを頼むなど、各自で対応してください。



・夏休みなどの長期休暇中は一定期間運休します。（事前にお知らせします。）

・車内での飲食は絶対にしないでください。また、忘れ物のないようお願いします。乗車ルールや運転員の指示に従わない場合は、乗車をお断りする場合があります。

・出発時間は列車のダイヤ改正等により変更になる場合があります。その場合は、村のホームページや車内チラシ等によりお知らせします。

《問い合わせ先》

総務課 企画財政班
☎ 64-1476

3月定例村議会

会期 3月9日～6月7日

(主なものを掲載します)

条例の一部改正

- 村個人情報保護条例の一部を改正する条例
- 村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

- 村一般職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 村税条例の一部を改正する条例
- 村指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

平成28年度補正予算

一般会計では、財源不足による財政調整基金の繰入額5,800万円を減額したほか、いずれの会計も決算を見通した補正予算となっています。

■一般会計(第9号)

《補正額》 1億9,300万円を減額
《総額》 50億4,800万円

■国民健康保険事業特別会計(第3号)

《補正額》 3,190万円を減額
《総額》 7億2,000万円

■国民健康保険関川診療所特別会計(第2号)

《補正額》 200万円を減額
《総額》 6,080万円

■介護保険事業特別会計(第3号)

《補正額》 3,170万円を減額
《総額》 10億230万円

■公共下水道事業特別会計(第2号)

《補正額》 900万円を減額
《総額》 4億3,410万円

■村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

■村水道事業給水条例の一部を改正する条例

■村簡易水道条例の一部を改正する条例

* 関係法令の改正及び関連規則等の改正に伴うものです。

計画の変更

■七ヶ谷南部辺地に係る公共的施設の総合整備計画変更について

* 村道大石ダム線トンネル修繕事業追加のため計画変更するものです。

■過疎地域自立促進計画の変更について

規約の変更

■胎内市、新発田市、村上市、関川村し尿処理に関する事務委託に関する規約の変更について

* 新発田市が脱退することにより変更するものです。

当初予算

■平成29年度の当初予算について

* 8～12ページの新年度予算の概要をご覧ください。

4月6日から15日は『春の全国交通安全運動』

～ 示そうよ 黄色い帽子に 大人の手本 ～

新入学(園)シーズンを迎え、新たに通学・通園を始める子どもたちとともに、二輪車などの交通量も増加します。ドライバーも歩行者も一人ひとりが交通ルールを守り、交通安全を心掛けましょう。

運動の重点

- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 自転車の安全利用の推進
- 飲酒運転の根絶
- 横断歩行者の保護



4月10日は「交通事故死ゼロを目指す日」

●歩行者の保護(新潟県の重点)

平成28年は、歩行中に45人が亡くなっています。そのうち64.4%を占める29人の方が道路横断中に交通事故にあっています。

- ・横断歩道等では『歩行者が優先』であることを再確認しましょう。
- ・夕暮れ、夜間に車を運転する場合は、原則として、上向きライトを活用しましょう。



村職員

()内は前職

【退職】 (3月31日付)

▽課長

井上広栄(税務会計課)

▽学校管理士

鈴木利彦(関川中学校)

【退職】 (12月31日付)

▽主事補

小田 藍(住民福祉課)

【異動】 (4月1日付)

■総務課

▽参事

野本 誠(企画財政班長)

▽主査・県へ人事交流派遣

石田友和(企画財政班)

▽主査・企画財政班

近 和則(農林振興班主任)

▽主事・企画財政班

諸橋幸映

(県から人事交流派遣)

▽主事補・総務班

長谷川健太(水道環境班)

■税務会計課

▽課長 田村久美子

(参事・会計室長)

▽副主幹・会計室長

秦 玲子(会計室)

▽副主幹・税務班

瀬賀 豪(福祉保険班主査)

▽主査・税務班

菅原道典(総務班)

▽主事補・税務班

沢田梨奈(新採用)

■住民福祉課

▽副主幹・福祉保険班

渡辺一洋(生涯学習班)

▽副主幹・健康介護班

田村清洋(商工観光班)

▽副主幹・住民戸籍班

相馬清子(健康介護班主査)

▽主事・健康介護班

須貝佳苗(税務班)

▽主事・住民戸籍班

吉光智華(新採用)

■農林観光課

▽副主幹・商工観光班

米野哲弘(総務班主査)

▽主査・農林振興班

須貝克幸(税務班)

■建設環境課

▽主査・水道環境班

船山 豊(健康介護班)

■教育課

▽参事

安久昭男(生涯学習班長)

▽主査・生涯学習班

瀬賀元子(水道環境班)

▽主査・学校教育班

市井章子(住民戸籍班)

▽学校管理士・関川中学校

伊藤 敏(総務課運転員)

■保育園

▽主幹・大島保育園園長

長 里美(下関保育園長)

▽主幹・下関保育園園長

伊藤厚子(大島保育園長)

▽保育士・下関保育園

井上顕嘉(大島保育園)

▽保育士・大島保育園

齋藤瑞綺(下関保育園)

教職員

()内は新任校又は前任校

■関川中学校

▽校長 山崎 明

▽主査 貝沼恵美子

【転出】

▽教諭 佐藤祐子

(村上市・村上東中学校)

▽教諭 相馬和憲

(村上市・朝日中学校)

【転入】

▽校長 村山敬介

(村上市・平林中学校)

▽教諭 佐藤晃子

(新発田市・紫雲寺中学校)

▽教諭 田島隆之

(県立村上中等教育学校)

▽主任 大田由加

(村上市・神納東小学校)

■関川小学校

▽校長 鈴木政信

▽教諭 相馬ひとみ

【転出】

▽教諭 高橋正司

(村上市・神納小学校)

▽教諭 内田則子

(聖籠町・亀代小学校)

▽教諭 佐藤裕子

(村上市・さんぽく南小学校)

▽養護教諭 伊藤裕子

(村上市・三面小学校)

【転入】

▽校長 倉松 栄

(県少年自然の家)

▽教諭 金子 亘

(新発田市・五十公野小学校)

▽教諭 田村 遼

(魚沼市・小出小学校)

▽教諭 池田幸代

(村上市・塩野町小学校)

▽教諭 枅倉 悟 (新採用)

▽養護教諭 川崎博子

(村上市・神納小学校)

その他官公署

()内は前任地又は新任地

■関川村商工会

【転出】

▽経営支援員 齋藤寿彦

(荒川商工会)

【転入】

▽経営支援員 水田大介

(新規採用)

■村上警察署下関交番

【転出】

▽所長 上田榮作

(新潟中央警察署)

▽巡查 石川一真

(江南警察署)

▽巡查 長谷川響

(江南警察署)

【転入】

▽所長 篠田 誠(警察本部)

▽巡查 大沼純樹

(新発田警察署)

■村上警察署上野新駐在所

【転出】

▽巡查 渡邊隆弘

(与板警察署)

【転入】

▽巡查 鶴巻佑介

(新潟北警察署)

■村上消防本部関川分署

【転出】

▽副主任 船山大伸(消防署)

▽副主任 田島直也(神林分署)

▽副主任 阿部隆一(朝日分署)

▽消防副士長 高橋俊篤(荒川分署)

▽消防士 渡邊拓巳(神林分署)

▽消防士 佐藤 歩(山北分署)

▽消防士 阿部孝祐(山北分署)

【転入】

▽副主任 矢田喬之(荒川分署)

▽副主任 佐藤裕一(山北分署)

▽副主任 大串 誠(消防署)

▽消防士 小嶋 亮(予防課)

▽消防士 横山健太(神林分署)

▽消防士 佐藤洋祐(消防署)

▽消防士 佐藤健世(消防署)

新聞販売所が見守り活動に協力

（株）丈越・下関新聞販売所と協定調印

村と村内全域を新聞の配達エリアにする（株）丈越・下関新聞販売所（野澤千登勢社長）は、配達員が業務中に村民を見守り、また、不法投棄や道路等の公共施設に異常を発見した場合は、村に情報提供する協定を締結しました。

村長は、「今後さらに高齢化が進むことを考えると村内全体で見守る体制づくりが必要であると考えていたので、ありがたい提案をいただいた」と話し、見守り活動が広がることに期待をしていました。村は、1月に郵便局とも同協定を結んでおり、これで早朝から日中の間、家庭訪問の機会が多い事業者と見守りに関する協定を締結したことになります。

今回の協定は、過去に早朝の配達業務中に、裸足で徘徊している高齢者を保護した経験などから、高齢化が進む関川村で、年をとっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の支えあい活動としての見守りに協力したいという思いの野澤社長から提案がありました。



下川口放流警報表示板更新 ～ 大石ダム放流を知らせる ～



3月16日、羽越河川国道事務所では、下川口地内にある放流警報表示板更新に伴う説明会を行いました。今までの表示板が20年経過し老朽化したことに伴う更新です。

今回の更新では、省電力化されたことにより約4割コスト縮減、視認性の向上により斜めからでも見やすくなりました。また、英語表記も行うことが出来るようになり、外国人にも伝わりやすくなりました。

説明会では、松平羽越河川国道事務所長が、「更新した放流警報表示板をあらためて確認していただき、大石川上流で大雨が降った場合には、速やかに避難を知らせ、安全・安心を確保していきたい」とあいさつをしました。

地元下川口集落から説明会に参加した伊藤清一さんは、「今までよりずいぶん見やすくなった。カラーで親しみやすいね」と話していました。

12年の伝統を引き継ぎ 新たな前進へ

春のよそおいに変わり始めた3月3日、関川中学校で「第12回卒業証書授与式」が行われ、47人が卒業の日を迎えました。

式では、在校生や父母が見守るなか、一人ひとりが壇上に上がり、山崎明校長先生から卒業証書を受け取りました。校長先生は式辞で「人間は誰もまだ知らないすばらしい力を秘めているもの。少しずつ歩み続けるカタツムリのように、自分の目標に向かってねばり強く成長していった欲しい」とはなむけの言葉を贈りました。

また、卒業生を代表して小田桜生さん（下川口）が「この3年間は楽しいことばかりではなく、いろんな壁にぶつかることができました。そんな時に助け合えたのは友達や同級生でした。かけがえない仲間たちとのすばらしい時間はいつまでも忘れないでいたいです」と述べ、思い出の学び舎を後にしました。



関川中学校卒業式

地域に根ざした病院づくり ～ 坂町病院健康ナイトスクール ～



2月24日、県立坂町病院の医師が講師を務めた講演会「坂町病院健康ナイトスクール“なじだねえ”」が村民会館大ホールで開催され、約80人が参加しました。これは、医療情報などを発信することにより、地域住民の健康増進や介護予防の促進を目的として開催されたものです。

講演は、同病院の鈴木薫院長や近幸吉副院長、小柴庸一薬剤部長が講演を行いました。

嚥下と誤嚥性肺炎について講演をした近医師は、「肺炎は死因の第3位になっている。多くは高齢者の誤嚥性によるもの。飲み込みの反射が弱まらないようにすることや口の中をきれいにすることなどが予防につながる。肺炎球菌ワクチンの接種も高齢者にとっては大切な予防になるので、ぜひ接種して欲しい」と話しました。参加者たちは、実際に飲み込みをよくする嚥下体操の指導を受けるなど、肺炎予防に対する知識を高めていました。

飯豊連峰を囲む3県山岳 遭難対策合同会議を開催

2月23日、新潟、山形、福島県にまたがる飯豊連峰の登山者の遭難対策を話し合う「飯豊連峰を囲む3県山岳遭難対策合同会議」が村民会館大ホールで行われました。関係する3県8市町村の警察、消防、山岳会など約70人が集まりました。

会議では、新潟県警地域課玉木大二郎課長補佐が講演し、過去の遭難救助で体験したリングワンダリング現象（環状彷徨）を説明。平坦な樹林帯で暗闇などにより視界を失うと、水平方向の光だけでは進行方向が特定できず、同一エリアを2周もした経験を伝えました。

各県からの事例報告では、村上警察署から管内の発生状況が報告されました。昨年、3件で1人が死亡、2人が軽傷を負う遭難が発生し、うち1件は、大石地内机差岳西俣コースで発生したものでした。各地域から、救助訓練の取り組みや最近発生するバックカントリースキーによる遭難の注意広報の活動などが報告されました。



3月12日、村民会館アリーナを会場に「ふれあい福祉健康フェア＆康フェア&エンジョイ！生涯学習広場」が開催され、大勢の来場者で賑わいました。

ふれあい福祉健康フェアでは、福祉用具体験や介護予防運動体験、村内の福祉施設や団体の活動状況紹介や作品が展示されました。ここところからだの健康コーナーでは、来場者が脳年齢や骨密度測定、ストレスチェックなど、各種測定を行い、健康に関する関心を高めていました。

ふれあい福祉健康フェア＆ エンジョイ！生涯学習広場



また、生涯学習広場では、シルクフラワーで花束作りや射的、ダーツなどを揃えた「エンジョイ！屋台村」に親子ずれがたくさん訪れ、夢中になって楽しんでいました。

教育長がそろえた難問バズルに挑戦した津野瑞貴さん（小学4年・下関）は、「難しかったけど、答えを見つけた時と正解と言われた時は、嬉しかった。楽しかったです」と笑顔で話してくれました。

平成28年度 新潟県書き初め大会

県知事賞受賞喜びの声 佐藤綾音さん

私が校長先生から受賞の話聞いた時は、「名前誰かと間違えたんじゃない!？」と半信半疑でした。ですが、学校の先生方から、「おめでとう!」と言ってもらい、だんだん「あー、本当に県知事賞とったんだな」と実感して、とてもうれしかったです。「希望の春」という字で私が苦戦したのが、「希」の1画目です。少しの力加減で字のバランスが変わるので大変でした。ですが最後は、納得のいく作品ができ、その作品が賞に選ばれたので、とてもうれしかったです。6年生最後のとてもいい思い出になりました。

平成28年度新潟県書き初め大会において、佐藤綾音さん（朴坂）が競書大会に続き、小学生で最高となる新潟県知事賞を受賞しました。その表彰式が2月26日に新潟県立近代美術館で開催され、受賞した佐藤さんが表彰を受けました。

また、準特選には6作品が選ばれました。受賞されたみなさんおめでとうございます。*敬称略

◆主催 新潟県書道教育研究会

◆応募数 県内の小・中学校から27,670点
(小学校25,258点 中学校2,412点)



6年・荒川台
長谷川あかり



6年・上関
渡邊一葉



6年・下関
佐藤にこ



4年・下関
石田夢来



3年・朴坂
佐藤汰一



3年・勝蔵
船山優心

準
特
選

県との相互派遣人事交流を終えて

村では初めてとなる新潟県との相互派遣人事交流が2年の期間を終えました。総務課企画財政班で勤務された仲澤周平主任に関川村での思い出を伺いました。



2年間、様々な業務に携わる機会をいただきましたが、特に印象に残っているのは総合戦略の人口ビジョン策定を担当したことです。村の人口は現在約5千8百人ですが40年後には約2千2百人にまで減少すると試算されます。これを何とか頑張つて3千4百人程度を維持したいというのが村の人口ビジョンです。今後の村の指針にもなるため、大変責任を感じたのを覚えています。

私ごとですが、関川村にいた間に娘が生まれ、花火大会ではメッセージ花火をあげました。関川村は私だけではなく家族にとっても特別な存在です。これからも村のイベントには家族で訪れたいと思っていますので、見かけたときにはぜひ声を掛けてください。

短い時間ではありましたが、村民の皆様の温かさにつれながら大過なく過ごすことができました。関川村での経験を活かし、県へ戻ったあとも村と県の架け橋のような人材になりたいと思っています。ありがとうございました。

学校からのお知らせ

今日は関川小学校からの紹介

6年生の卒業をお祝いしました！

2月24日(金)、「6年生の卒業を祝う会」を行いました。5年生が会の企画や運営を中心に、お世話になった6年生への感謝の気持ちをみんなで表しました。学年のゲームや寄せ書きのプレゼント、くす玉割りなどを行いました。

6年生からは、お礼の気持ちを込めて歌と在校生へのメッセージが披露されました。

最後は、1～5年生と保護者の皆さんでつくったアーチの中を、6年生が退場していきました。

会場が温かい雰囲気包まれた2時間でした。



篠笛の音色に魅了されました！

3月10日(金)と13日(月)、篠笛奏者の田村優子さんをお招きして、5年生を対象とした音楽の鑑賞授業を行いました。

当日は、田村さんが「ふるさと」「もののけ姫」などの曲を篠笛で演奏され、その後、琴や和太鼓などを使った体験学習も行いました。

子どもたちからは、「篠笛の音色がきれいでした」「琴を初めて弾いて感動しました」などの声が聞こえました。篠笛の音色に魅了され、和楽器のよさを味わった時間になりました。



近 良 平さん(大島)が 全国町村議会議長会から表彰



このたび、議会議長を務める近良平さんに全国町村議会議長会から自治功労者表彰が贈られました。

近さんは、昭和62年に村議会議員に初当選されてから、27年の永きにわたり地方自治の進展のために大きな役割を果たされました。また、その間7年以上にわたり議会議長として尽力され、地域の振興発展に寄与貢献されました。

表彰おめでとうございます。



力作ぞろいです！
文芸せきかわ(第27号)
を発行

このたび、「文芸せきかわ第27号」が3月20日に発行されました。

「文芸せきかわ」は、村民のみなさんの作品を掲載した文芸誌です。第27号では、歴史的に関川村にかかわった著名な方々の研究や小中学校の児童・生徒の作品も掲載されています。

- ・販売場所 村民会館、小泉屋、せきかわ歴史とみちの館
- ・価 格 1,000円
- ・問い合わせ先 教育課 ☎64-2134

地域おこし協力隊がやって来ます！

～観光振興支援員として齋藤さんに委嘱状～

村では、4月から地域おこし協力隊を受け入れます。地域おこし協力隊とは、人口の減少や高齢化が進み人材不足な地方において、地方での生活を望む都市部の人たちを迎え入れ、地域の課題解決のために各分野での活動に携わってもらうことにより、地域の活性化とまちおこしの一員となってもらう制度です。平成21年度から総務省の政策として創設されました。平成27年度には全国673の自治体で2,625人の隊員が活躍しています。

この4月から協力隊員として関川村で活動してくれる齋藤知幸さんと地域おこし協力隊制度について紹介します。

活動期間は？

おおむね1年以上3年以下の期間、村から委嘱を受け、地域で生活し、様々な地域協力活動を行っていただきます。3年を超えても活動の継続は可能です。

平成27年3月末までに任期が終了した地域おこし協力隊員のうち、約6割が同じ地域に定住しています。

都市部から、関川村を選んできてくれた齋藤さんに1日も早く村を知ってもらえるように協力ください。

どんな活動をするの？

協力隊の地域協力活動はさまざま、農林漁業の応援、住民の生活支援などがあります。協力隊は、決して何でも屋ではありません。齋藤さんは、村全域の観光振興支援活動を行います。

また、その地域への定住・定着を図りながら、外から来たことでわかるその地域の良さなど、新たな視点も含めた活躍が期待されます。広報せきかわでは、随時齋藤さんの活動の様子を伝えていきます。

協力隊プロフィール



〈氏名〉齋藤知幸さん
〈転入先〉下関

4月から地域おこし協力隊として活動することになりました齋藤知幸（ちゆき）です。生まれは新潟市秋葉区で、村のことはわからないことだらけです。いろいろなことを教えてください。どうぞよろしくお願いします。これまで、東京でインテリアデザインをしたり、イタリアで料理を学んで料理教室を主催したりと、様々な分野で仕事をしてきました。外国を旅するのも好きで、いろんな場所を見てきて日本の良さを見つめなおすことができました。そんな目線で村の宝ものを探そうと思っています。そして、村外の方々に魅力を知ってもらえるよう情報を発信したり、体感イベントなどを企画したりして、関川村のファンをつくるお手伝いができたらいいなと思っています。

村でもイノシシ被害が増加中！

～猟友会で捕獲檻設置・巻き狩りを実施～

関川村でもイノシシと思われる畦畔の掘り荒らし被害が相次いでいます。

県でのイノシシ分布の中心は、上越や中越でしたが、7年ほど前に村上市の用水路で発見され、村でも平成26年に2頭、平成27年には七ヶ谷地区で4頭、九ヶ谷地区で1頭が捕獲されました。

村では、対策として昨年7月にイノシシ用捕獲檻を購入し、被害情報のあった箇所に設置しましたが、現在のところ捕獲の実績はありません。



▲皆川さんが捕獲したイノシシ

また、2月15日までの猟期に3頭捕獲されたことを受け、猟友会村上支部関谷分会では足跡の残りやすい2月下旬から巻き狩りを実施。被害情報のあった七ヶ谷地区で10頭の集団を確認しました。

猟友会の堀隆一さん（湯沢）は、「サルより学習能力が高く捕獲が難しいが、ネズミ式に増えていく前になんとかしたい」と話し、猟期に1頭捕獲した皆川実さん（下関）は、「民家近くで姿が目撃されているので、生ごみなどで餌付かないように、エサ場を作らないようにしなければならぬ」と話していました。

5月31日(水)はチャレンジデー! 地球規模のスポーツイベントに参加します!

毎年5月の最終水曜日に、世界中で開催されている住民総参加型のスポーツイベント「チャレンジデー」に、関川村が参加します。

チャレンジデーとは、人口規模がほぼ同じ自治体間で、1日15分以上、運動やスポーツを行った住民の数(参加率)を競います。敗れた市町村は、対戦自治体の旗を1週間庁舎に掲げ、相手に敬意を表するルール

です。バスケットボールやバレーボール、ゲートボールなどの仲間との活動のほか、ウォーキングや自宅での筋トレでも参加できます。チャレンジデーの5月31日の午前0時から午後9時までの間に、関川村にいる全ての人が参加できますので、皆さん参加してください。なお、詳細については5月号などお知らせします。



自慢の愛車シルビア

(S15) が世界を走る

〜 大島優紀さん(上野新) 〜



国道290号線の上野新地内を通ると気になるスポーツカーを見かけたことはありませんか。車高の低いスポーツカーで、あまりの車高の低さに車道を走ることが出来るのかと思ったことはありませんか。また、夜遅くまで、明かりのついていない作業場が気になった人は多いと思います。その車の持ち主は、大島優紀さん(上野新)、26歳です。大島さんは、中学3年生からバイクに興味を持ち、お父さんが車の整備士だった影響もあり、原付免許を取る頃にはバイクの整備もするようになっていました。

現在は、建築士の傍らシャ

コタンドリフトチーム「RE MAINS LOW(リマインズロウ)」に所属し、趣味のスポーツカーを楽しんでいます。趣味とは語るものの、その域を越えていて、2016年に愛知県のモーターランド三河で開催されたドリドレ走(ドリフトドレスアップ走)でベスト賞を受賞、また「2016シャコタンオブザイヤー」にも輝き、その道では知らない人がいない有名人です。大島さんが作りあげる車は、日本国内のみならず、世界からも注目されており、今年の1月にベスト賞に輝いた愛車シルビア(S15)をネットオークションに出品すると、世界中から問い合わせが殺到し、愛車はイギリスのカーショッブに譲られたそうです。大島さんは、「自分の車がイギリスの景色をバックに走っている姿がインターネットを通して見れるといいな」と話していました。



▲ドリドレ走での愛車シルビアS15

大島さんは、現在も2台の車の制作に取りかかっている、5月に三重県鈴鹿市で行われるドリドレ走に向けて愛車のチューンアップにいそしんでいました。とことんやらないと気が済まない性格で、日本一にも満足していない、今年はずいぶん海外でも走ってみたいと話していました。また、スポーツカーを盛り上げたいと考えており、子供たちにも車やバイクが好きになって欲しいので、興味を持ったら、気軽に「ガレージ大島」(作業場)に寄ってもらいたいと笑顔で話してくれました。

「後期高齢者医療制度」のお知らせ

Vol.12 健康診査の受診について

生活習慣病といわれる糖尿病や高血圧症、脂質異常症などは、最初は症状がなくても心臓病、脳卒中などの重大な病気につながります。

後期高齢者医療制度の被保険者は、村が行う健康診査を無料で受診することができます。ぜひ受診しましょう！

基本的な健康診査の流れ



① 2月に実施した健康診査調査票で健診を申し込まれた方へ、村から受診案内（受診票・問診票等）を送付します。

② 健診内容（実施期間・健診機関）を確認して、健診を受けます。

★詳しくは、住民福祉課へお問い合わせください。

健康診査を有効に受けるポイント

- ① 1年に1回健康診査を受ける
病気の早期発見のため、定期的に健康診査を受けましょう。
- ② 再検査・治療が必要な場合は、必ず医療機関で受診する
病気が悪化する前に治療を受けましょう。
- ③ 自分の健診結果の内容を知っておく
健診結果には必ず目を通して、自分の健康状態をしっかり把握しておきましょう。
- ④ 村で行っている健康相談を活用する

健康診査項目

- | | |
|-------|--------------|
| ■問診 | ■身体測定（身長・体重） |
| ■血圧測定 | ■尿検査 |
| ■貧血検査 | ■血中脂質検査 |
| ■血糖検査 | ■肝機能検査 |

毎週月曜日、10時～14時のあいだ、保健センターで健康相談をしています。ぜひ、ご活用ください！



Q. 現在、生活習慣病などで医療機関に通院中ですが、健康診査を受けることはできますか。

A. 生活習慣病などで医療機関に通院している方も、健康診査を受けることができます。

市町村職員を装い、高齢者を狙った医療費還付金詐欺事件が多発しています。
不審な電話があったら、一人で判断せずに周りの人に相談しましょう。

関川村包括支援センター通信 66

地域包括支援センター 役場庁舎内1階 ☎64-1473

介護保険制度改正

◆総合事業が始まります

介護保険法改正に伴い、介護予防事業が見直され、

地域の実情に応じた総合事業へ移行されることとなりました。総合事業は、介護予防に重点をおいた事業であるとともに、少子高齢化が進行しても地域で暮らせる体制構築を目標とした事業でもあります。村は、事業へのスムーズな移行を行うため、今までの介護予防事業を基本とし、平成29年4月から実施します。

今回、総合事業の対象となる要支援1・2で訪問介護、通所介護を利用されている方は、認定の更新時に合わせて移行となるため、対象者には順次説明します。

◆総合事業の一部をむつみ荘で実施します

村では、これまでの介護

予防事業を強化することを目的に、村独自の総合事業を当面の間むつみ荘で実施することになりました。実施について、ご理解とご協力をお願いいたします。

むつみ荘の利用が一部変わります

〔平成29年4月から〕

○大広間の利用

月曜日

○小部屋の利用

月、火、水、木、金

(変更なし)

○利用時間

午前9時～午後4時30分

(変更なし)

○老人クラブ水曜日入浴事業

水曜日 (変更なし)

○休館日

土、日 (変更なし。但し、敬老会等は今まで通り)

○利用申込み

直接むつみ荘へ

(64-1312)

健康講座

144

くすりの価格と医療費

新潟県立坂町病院薬剤部長 小柴 庸一

くすりの価格は、国が定めた薬価基準で決められています。初回の薬価は、同効薬などの類似薬比較や原価計算(開発経費・流通経費などから精算)により算定され、2年毎に薬価調査を行い実勢価にあわせて改定されています。ところで「オプジーボ」って聞いたことがありますか。

大きくありませんが、年間推計13万人の患者がいる肺がんの使用されると、医療費全体に占める割合が無視できなくなり、医療保険財政を圧迫すると指摘されるようになりました。結果として「オプジーボ」の薬価は、急遽2017年2月1日から半額に改定されています。

昨年から新聞やテレビで報道されていたので、ご存知の方も多いと思います。「オプジーボ」は、まったく新しいタイプのがん治療薬で、患者数の少ない悪性黒色腫(患者は年間4千人)を対象に発売され、その後、肺がんにも適応が拡大されました。「オプジーボ」の薬価は高額で、1年間継続して使用すると薬代だけで約3,500万となります。薬価が高額でも患者数が少なければ医療費に占める割合は大

きくありませんが、年間推計13万人の患者がいる肺がんの使用されると、医療費全体に占める割合が無視できなくなり、医療保険財政を圧迫すると指摘されるようになりました。結果として「オプジーボ」の薬価は、急遽2017年2月1日から半額に改定されています。

また、医療費の中で薬剤費が占める割合は、全体の25%で2014年の薬剤費は10兆円となり、ますます増加する傾向にあります。そのため、国は薬剤費を減らす施策として「後発医薬品の使用促進」「残薬の確認と処方日数調整」「処方薬の総合評価・調整」などを進めています。

薬剤部でも、地域の皆様に、先ず安心・安全、そして安価な医療を提供する観点から「採用薬品の見直し」や「後発医薬品への切り替え」など継続して取り組んできました。さらに、昨年4月からは、「内服薬の総合的な評価・調整」により「不要な薬」や「過剰な薬」の整理を始めたところ

です。これらを進めるためには、患者様一人ひとりの理解が不可欠です。これからもご協力をよろしくお願いします。



*このコーナーへのお問い合わせは、県立坂町病院へ。

☎62-3111



光兔こども館を利用してみませんか？
村では、小さなお子さんに安全な遊び場を提供すると共に、同じ育児世代の保護者の方々の情報交換の場となるよう、親子で自由に使えるこども館を、上野新に設置しています。

こども館には、運動スペースやマンガ本などを取り揃えてありますので、お気軽にご利用ください。また、ご利用の際は、管理人にひと声おかけください。

なお、子ども館では保育士等による保育はしておりません。



気軽においでませ！ 光兔こども館へ



生涯学習 情報ステーション

広報せきかわ「お知らせ版」とあわせてご覧ください

◆お問い合わせは村民会館へ
☎ 64-2134



場所 上野新130番地2
女川ふるさと会館隣
問い合わせ先
住民福祉課福祉保険班
☎ 64-1471

開館日	土日祝日、関川小学校の長期休日、学校振替休日
開館時間	4月～9月 午後1時～午後6時 10月～3月 午後1時～午後5時
閉館日	月～金曜日、 8月13日～8月16日と12月29日～1月3日



図書室の窓から

村民会館図書室

春ですね。入学や入園、進級と新しい第一歩を踏み出す方も大勢いるのではないのでしょうか。散歩の途中に図書室へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

この本よんで!!

「もう、ねるんだってば!」
ジョリ・ジョン



クマは、ねむくて ねむくて しかたがないのに……
いっしょに あそびたくて たまらない
アヒルが やってきた!
クマは、ぶじに ぐっすり ねむることが
できるかな?

今月の1冊

「蜂蜜と遠雷」
恩田 陸



私はまだ、音楽の神様に愛されているだろうか?
ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、そして音楽を描き切った青春群像小説。著者渾身、文句なしの最高傑作!



今月の図書館バス

にじ色と、“汽車”のメロディーが目印です。

高田～沢～女川 方面 …… 8(土)23(日)
大島～片貝～大石 方面 …… 15(土)

15日は おはなしのかい 毎月第3土曜日です

ブルーベリーの皆さんが贈る、ステキなおはなしの世界…。ろうそくを使っの演出が幻想的です。家族みんなでの参加も大歓迎! 無料です!

参加してくれたこどもたちにはかわいいシールをプレゼント!

毎週水曜日がお休みです。平日は、13時～17時30分まで、土・日・祝は、9時～17時まで開館しています。



船山陽大さん
(新発田リトルシニア・勝蔵)

中学生の硬式野球チーム「新発田リトルシニア」で野球に取り組む船山陽大さん（中学3年）に話を聞きました。

―野球の楽しさはどんなところですか？

走攻守があるところです。野球は、バスケットボールやサッカーのような1つのゴールに向かっていくスポーツではなく、バレーや卓球のようなネットをはさんで行うスポーツでもありません。野球は、守備・攻撃・走塁、どれも場面ごとに分かれており、それぞれ1つのプレーにサインがあります。野球は、どのスポーツにもない難しさがあるので楽しいです。また、同じ目標をもった仲間たちと汗を流してプレーするのが最高に楽しいです。

―大きなケガをされたそうですが？

昨年の12月に半月板を損傷しました。今後も野球を続けていこうと思っているので、家族と相談し手術を決断しました。手術後は、野球ができないという、辛く苦しい思いをしましたが、現在は野球ができるようになり、野球をもっと好きになりました。

―3年生で最高学年を迎えますが、目標は？

中学硬式野球の最後の年なので、後悔のないように日々の練習を大切に、チームの目標である全国大会に出場できるように頑張ります。そして、高校受験をひかえているので、志望校に行けるように勉強もがんばっていきたいと思います。

―将来の夢を聞かせてください。

高校で甲子園出場を目指して、その後はプロ野球選手になることです。

『広報せきかわ』送riませんか？

村を離れて遠くに暮らす家族や友人、親戚へ「広報せきかわ」を送りませんか。

年間購読料をお支払いいただければ、毎月郵送で広報をお届けします。

《お届け期間》平成29年5月号～

平成30年4月号まで12回

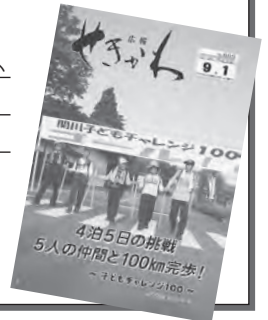
《年間購読料》2,000円

随時受け付けしています。申し込みを希望される方は、下記までご連絡ください。

※送付先の郵便番号、住所、氏名、電話番号のほか、申込者（納付者）の住所、氏名、電話番号が必要です。

《申し込み先》総務課総務班

☎64-1476



放課後子ども教室ボランティア（サポーター）を募集しています！

村では、今後さらに放課後子ども教室を充実させるために、サポーターとして協力していただけるボランティア（有償）を随時募集しています。興味のある方、やってみたい方は、ぜひお問い合わせください。

《問い合わせ先》教育課生涯学習班 ☎64-2134



- 期日 2月26日
- 会場 村民会館アリーナ
- 成績
- ▽ 小学生の部
- ▽ 優勝 ガチ勢（関川小6年生）
- ▽ 準優勝 パリピフー（関川小6年生）
- ― 一般の部 ―
- ▽ 優勝 川北和楽
- ▽ 準優勝 レッドブル 九ヶ谷
- ▽ 第3位 ゴールドベアーズ（七ヶ谷）

大会結果

* 敬称略

第7回 村民ふれあい綱引き大会

じっくり心をこめて スロー フード 157



ひき肉の袋詰め

薄味ですが具沢山で素材の旨味が活きた一品で食欲もそそられます。お弁当のおかずにもおススメです。

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材 料 (4人分)

- ・うすあげ 2枚 ・豚ひき肉 100g
- ・たまねぎ 80g ・人参 40g
- ・うずらの卵(水煮) 4個
- ・だし汁 1・1/2カップ

【A】

- ・片栗粉 8g ・しょうが汁 4ml
- ・しょうゆ 小さじ1 ・塩こしょう 適量

【B】

- ・砂糖 小さじ2強 ・酒 大さじ1
- ・しょうゆ 大さじ1弱 ・塩 0.4g

作り方

- ① うすあげは半分に切り落とし袋にする。
- ② たまねぎと人参は粗みじん切りにする。うずらの卵は袋もしくは缶のふたを開け、水気をよく切っておく。
- ③ ひき肉に②のたまねぎ、人参、【A】を入れよく混ぜ①に詰め、②のうずらの卵を入れる。
- ④ 鍋にだし汁と【B】を煮立て③を入れ、20分位中火で煮詰める。

せきかわ文芸

俳句

山柳・俳句

春寒し 武甲の里に 鳥きたる

春冷の 素顔をうつす サイドボード

春惜しみ 青空高く 鳥の群

水溫む 小鷺来たりて 魚まつ

大園寺 土冷えびえと 椿落つ

横山 一正 (東京都)

短歌

白鳥の大集団が連なりて
北へと向かう声かまびすし

渡辺千恵子
(上関)

関川俳句の会作品

天気図にずらりと並ぶ雪だるま

伊藤 久恵

吹雪止み眩しきほどの日射しかな

伊藤 久恵

何の音屋根より落つる雪の音

伊藤 久恵

遠山の点々灯るスキー場

伊藤 久恵

杵差遠くに浮かぶ雪景色

伊藤 久恵

のどけしや鏡としゃべる美容室

伊藤 久恵



国際ボランティア学生協会
IVUSA 通信

◆新年度が始まりました！

今月号では、これまで関川村にたくさん関わってきた卒業生から関川村の皆さんへメッセージをお届けします☆

〇わたしにとって関川村は帰る度に新たな魅力を発見できる不思議な場所です。本当はまだまだ、関川村の方々と一緒に関川村のこれからのことを考えて話していきたいです。私たち4年生は卒業しますが、これからも頼もしい後輩たちがお世話になります。関川村とIVUSAの関係がこれからも続きますように。
(共立女子大学卒・門田奈実)

〇上手く口では表せない。でも毎回帰ってしまう。そ

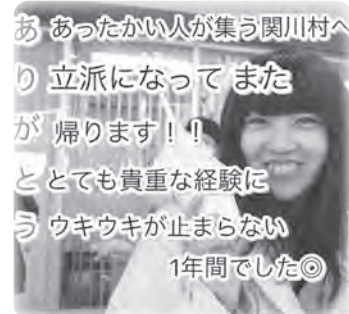
んな不思議な魅力があるのが関川村。縁もゆかりも無かった関川村と、ちよつとしたきっかけで関わることできて幸せでした。今後とも一人の人間として繋がっていただけなと思います。またお会いできる日を楽しみに自分も社会に出ます。
(東洋大学卒・長南拓弥)

〇最初はなんとなく選んだ関川村でしたが、段々と知り合いが増え、村の皆さんに本当に良くしていただくうちに気づけば当たり前前に帰る大切な場所になっていました。卒業してもまた帰るのでこれからもよろしくお願ひします！
(日本大学卒・小林雪美)

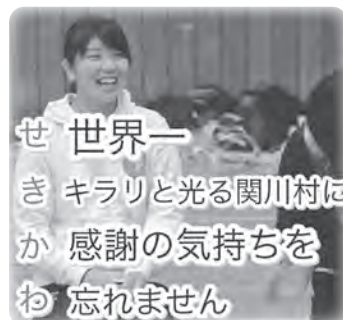
〇いつも帰る度に家族のように迎え入れてくださった関川村の皆さんに感謝しかありません。IVUSAは卒業しますが、4月から新潟県民として働くので帰ります。私の後輩達が関川に帰ってきた時は可愛がってあげて欲しいです。これからよろしくお願ひいたします。
(国士館大学卒・長谷川智隆)

◆1年間、このページを担当させていただいた私たちですが、今月号で卒業することになりました。

☆担当者メッセージ☆



立命館大学4年 山元真央



東京家政大学3年 高橋美晴

広報せきかわの担当は卒業しますが、また関川村で皆さんにお会いできる日を楽しみにしています！

来月号からは新しい担当者になります。お楽しみに☆

むし歯ゼロの子にピッカピッカ賞

平成29年3月16日に行われた3歳児健診で、むし歯が1本もなかった子どもたちに「ピッカピッカ賞」が贈られました。(順不同・敬称略)



	須 貝 美 羅 (高 田)
	成 岡 美 南 (高 瀬)
	佐 藤 柚 姫 (朴 坂)
	佐 藤 煌 晟 (朴 坂)
	日 下 修 志 (高 瀬)



忙しい脳の中味は探し物

長短所みんな宝と親ゆずり

寿命あるうちは生きますありがとう

せきかわ山柳会作品「雑詠」

平田 千恵

平田 千恵

平田 千恵

戸籍の窓

●2月16日～3月15日までの届出●

お誕生おめでとうございます

しもん
土 文ちゃん(男) 大島
渡辺 竹彦・奈保さん
はるき
晴 輝ちゃん(男) 下関
清水 琢磨・智恵子さん

ごめい福をお祈りいたします

長野 高威 さん	87歳	上土沢
菅原 金雄 さん	86歳	片貝
近 ヨシ さん	87歳	荒川台
小野 ナミ さん	93歳	下関
千代沢さよ さん	88歳	辰田新
伊藤 勇 さん	83歳	南中
駒沢 辰衛 さん	84歳	鉾江沢
大沼トメヲ さん	96歳	上土沢
渡辺 トリ さん	96歳	上関
平田 ナツ さん	79歳	平内新
小嶋 トメ さん	92歳	下関
近 ナ・イ さん	90歳	上関

広報に載せてほしくない方は届出の際、窓口にお申し出ください。

人の動き

平成29年2月末現在 ()は前月対比

世帯数 1,947世帯(－6)
総人口 5,899人(+1)
男 2,828人(+3)
女 3,071人(－2)

(転入 12人 転出 6人)
(出生 5人 死亡 6人)

編集室から

▶ドリドレ走でベスト賞を受賞された大島優紀さん、おめでとうございます。負けず嫌いでとことんやらないと気が済まないという行動力に驚き、また、その人柄で築きあげた人脈や人間関係の考え方にも感心させられました。まずは自分の思いを大事にすることが大切だと感じさせてもらった取材でした。

▶新年度を迎えました。今月号から、広報せきかわの表紙と裏面がカラーになりました。気持ちを新たにカラーで見やすい広報紙を目指していきます。(と)

なつり輝く☆せきかわっ子たち

vol.65

今月は、スポ少バレーボールで活躍している高橋莉緒さん(6年・上土沢)を紹介します！

友達に誘われて4年生から始め、今年新チームのキャプテンに指名されました。ポジションはアタッカーで、スパイクが決まった時が気持ち良いという莉緒さん。苦しい時には励まし合い、みんなで声をかけあいながら試合をすることが楽しいそうです。アニメの「ハイキュー!!」が大好きと話してくれた笑顔も練習がはじまると真剣なまなざしに変わりました。



⑥ チームメイトから見た莉緒さんは？

- ・おもしろくて頭が良い
- ・ちょっと抜けているところがあるけど頼りがいがある。

⑥ 指導者の八幡良市さんから莉緒さんへ

キャプテンとして4月に入る新人をしっかり指導をして、6月の大会に向けてチームをまとめて欲しい。

⑥ 将来の夢は？

まだ決まっていません。バレーボール関係の仕事もいいかなあ。



目標は、新チームでの大会優勝！

わが家の人気者

えみり
笑里ちゃん(6歳)

りおな
莉央菜ちゃん(5歳)

渡邊栄稔さん 和代さん(高田)



年も近く、よきライバルの仲良し姉妹です。手先が器用でアイディアマンの2人は、いつも何か作って楽しませてくれます。これからの2人の成長を見守っているよ。